

月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明徳の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

今、できること

特集 実習に向けて (P.3-11)

6月の3週間に立ち向かっている2年生へ

～教育実習II事前指導から～

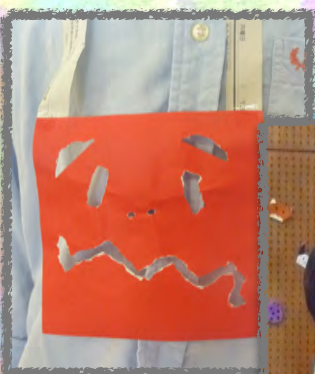
「あそび技能演習」の先生方から2年生へ

1年生の保育体験 さっそく幼稚園・保育園へ行きました！

- ・学友会選挙 (P.12-13)
- ・サークル紹介 (P.14-16)
- ・教員からのおすすめ (P.17)
- ・新学長へのインタビュー (P.18-19)
- ・!hot news! (P.20-23)

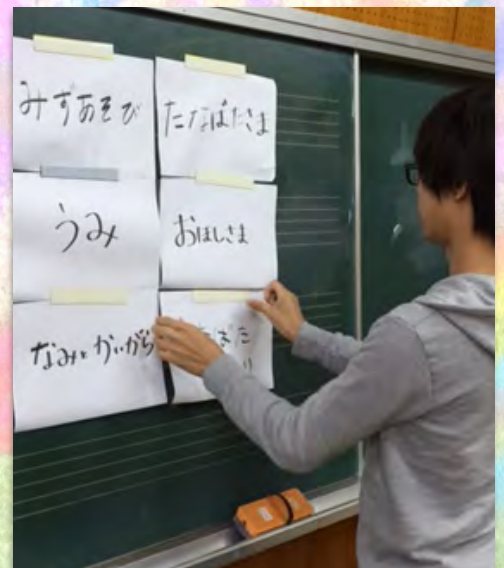


今でもこう



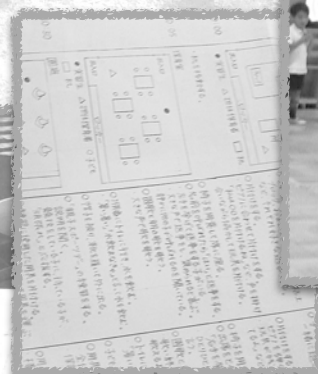
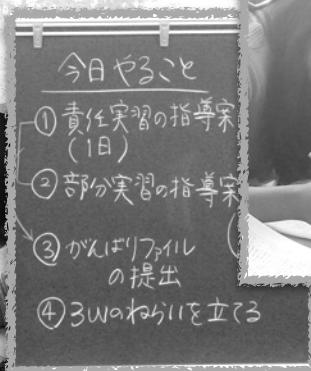
「どうしよう」「何したらいいんだろう」「あれもしなきゃ、これもしなきゃ」「私、何やってるんだろう...」

大丈夫。落ち着いて。
今、自分ができるところから、取り組もう。
月歩学歩第2号です。



特集

実習に向けて 向 に け て



新年度が始まって2ヶ月。2年生は6月からの幼稚園実習を控え、日々その準備をしていた5月。今、まさに実習中です。1年生は、実習の前段階とする保育体験として、保育現場に身を置き始めました。今回は、実習に向けた今の明德での取り組みを紹介しながら、学生の皆さんへのメッセージをさまざまな人からいただいた特集です。



6月の3週間に立ち向かっている 2年生の皆さんへ ～教育実習Ⅱ事前指導から～

金 瑛珠



多くの2年生は、6月5日から26日まで、3週間の教育実習に出かけていきます。3週間という期間は、実習に行く前の段階ではとても長い期間に思えているようです。「3週間、やりきれんのだろうか」という不安な気持ちを抱えながら、実習の準備を進めている人が多いのではないのでしょうか。

今回の実習は、今までの実習とは少し違い、一年後には保育者になっているであろう学生を、幼稚園では親身に、時には厳しく、指導していただきます。従って、学生が感じるプレッシャーや、先生方から求められるものが今までとは全く違うと言えます。やれるだけのことを精いっぱいやって、遅しくなって戻ってきてほしいと願っています。

実習担当として、4月から、計画的に準備をして実習を迎えよう、やれるだけの準備はしっかりやって実習に臨もう、と言ってきたつもりです。実習が始まってから「あれをやっておけばよかった、これをしておくべきだった」などという後悔を最小限に押し留めたいと思っているからです。そのような意味で、この原稿を書いている今は、実習初日まで後9日というところですので、まだまだ、もう少し、皆さんを追い込んでいくかと思いますが、この「月歩学歩」が2年生のところに届く頃には、「やれるところまではやったから、後は頑張るのみ！真摯な気持ちを持って、子どもから、保育者から、たくさんのことを学んで、元気に戻ってきてください！」という気持ちで応援していることでしょう。

実習に行く際、実は、どれだけ準備をしても、実習終了後に完璧な準備をして臨めた実習だった、と振り返る実習生は存在しません。なぜなら、保育は、子どもと保育者が共に作っていく営みですので、保育者も（大ベテランの保育者でも）、日々、試行錯誤をしながら、目の前の一人ひとりの子どもを理解しようと努めながらその場に身を置いているからです。従って、事前にやれる準備はもちろんたくさんありますが、事前準備の量で実習が評価されたり、その量が自分の満足度に直結するとは限りません。実習中、一人ひとりが自分の課題を意識しながら、真摯に向き合い、取り組み、手ごたえを感じられるかどうかで充実した実習となるかどうかが決まってくると思います。



なお、事前の準備として、全体で様々なことに取り組みながら、学生に自分のペースでやっていくように課した課題は、「頑張り表」と「日報」、「指導案作成」でした。「がんばり表」は、日々、自分が実習に向けて努力した成果を目に見えるように書き残していく課題。

「日報」は、日々の出来事を他者に伝わるように書いて表現する習慣となるよう、課してきた課題。「指導案」は、設定等を替えながら、皆さんが子どもの姿を具体的にイメージしながら保育の流れをしっかりと思い描く準備として最低枚数を指定した課題でした。

私の研究室前に、4月から用紙を用意して来ましたが、順調に減っていき、100枚単位で何回も補充をしました。用紙を取りに来る皆さんの顔を見て、お喋りをして、心の中でエールを送ってきたつもりです。

今、実習中の2年生の皆さん、「やれることはやったから頑張るしかない！」という思いで実習に臨んでいますか？

実習が終了してからこれを読んでいる皆さんは、「頑張ったよ！ 行く前も、実習中も！」と言える日々を過ごせましたか？

3週間の実習は、始まってしまえばあっという間だった...という感想が、最も多い実習です。大変でもありますが、多くの学生が、特定のクラスで子どもたちと3週間、共に生活をし、子どもたちにたくさんのことを教えてもらい、助けてもらい、そして、保育者に具体的なご指導を頂きながら、保育の難しさ、奥深さ、そして、やりがいを感じて戻ってきます。辛い思いをしている人も、悔しい思いをしている人も、たくさんいると思いますが、精いっぱい頑張って、戻ってくると信じています。その前に、実習先で、皆さんの頑張っている姿を見ることを楽しみに、我々教員も皆さんの実習先にお邪魔致します。

3週間を終えた時、皆さんが一回りもふた回りも成長して戻ってくる姿を楽しみに、私自身も「私がやれるところはやった（やってあげられるところまではやった）」と言って送り出せるように、頑張ってきました。

皆さんにとって、学生として、保育を学べる期間は残り少し...。たくさんのことを吸収して、そして、課題を見つけて、戻ってきてください。

そして、今回、3週間の実習には行かない、という選択をした皆さん、自分で決めた有意義な時間の過ごし方がどうであったか、是非、お話し聞かせてください。

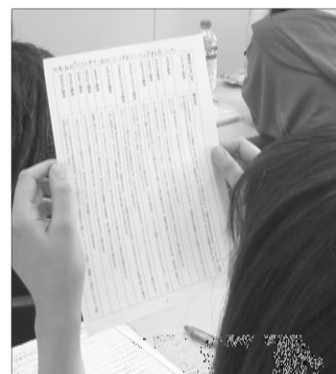
一人ひとりが充実した3週間を過ごせますように...



bebe by berta

「あそび技能演習」の先生方から2年生へ

6コースある2年生のこの授業では、
4月に全コースを体験、5月からは自分が
選んだコースで進んでいます。
さてさて、各コースの先生方から、
学生みんなへのメッセージだよ。





深谷 ベルタ先生

手作り教材やおもちゃ製作に
取り組んでみる

本年度の深谷担当コースには、例年通り製作に関心をもつ履修生が多く集まりました。本授業の前期5回ですべてのコースを体験していただき、6月に始まる教育実習の準備に確実に取り組み、残り10回は、卒業後の仕事を想定して、保育者になった自分が使いたいもの、作ってみたいものを各自で決め、コツコツと製作しています。手間のかかるパネルシアターや、実物の折り紙で作られる「折り紙図鑑」に人気が集中しています。パネルシアターを使用しない保育園や幼稚園もありますが、多くの園で好まれますし、子どもたちも喜ぶアイテムです。保育者になりたての時期を考えると、手間暇かかる保育教材を作ることはかなり難しいので、今のうちにという理由から選んだ学生が多いようです。これらの他に、子どもたちが参加するイベントで使いたい「ティピ」を作ることに挑戦する学生もいます。本授業としてこれは初めてのことで、授業担当者自身もわくわくしながら、出来上がるのを楽しみにしています。

自分の感性に自信を持って人を巻き込めば、あそびはもっと楽しくなります

この授業では、「実際にやってみること」を大切にしています。これは、例えばゲームであれば、私が授業で紹介するものだけではなく、自分でも調べたり考えたりして「やってみよう」と思ったものです。また、今年度からは、月に一度スターバックスコーヒー千葉おゆみ野店でお話ライブを行っています。初めてのことで戸惑いもありますが、全員で知恵を出し合って、次はよいもの、その次はもっとよいものを目指していきたいと思っています。

学生の皆さん！ 人を楽しませるには、まず誰よりも自分が楽しいと思わなければなりません。「自分は面白いと思うけど、みんなはどうかな…」と心配になるかもしれませんが、大丈夫。自分の感性に、自信を持ちましょう。そして、自分の感じた面白さに他の人も巻き込んでください。そうすれば、あそびはもっと楽しくなりますよ。



高森 智子先生

言葉とお話であそぼう

益子 美土里先生



体を育てるあそび

私は1年生の授業「体育（実技）」で取り上げた「キッドビクス」を、体を育てる運動あそびとして紹介し、学生が保育現場に出た時にいかして欲しいと思って授業をしています。

今、コース選択が決定して3回目の授業が終わりました。次回は、授業で行ったキッドビクスを、学生達が実際に附属幼稚園の子ども達に教えに行きます。これは、6月の幼稚園実習の前に学生達にぜひ現場を経験して欲しくて、毎年授業で行っています。今年のメンバーはやる気がある学生ばかりで、役割分担が決まってすぐに練習し準備をする姿がありました。当日がとても楽しみです。

さて、私は保育士ではありませんが、子ども達にキッドビクスやダンスを教える仕事をしています。子どもに教えるのは体力も気力も必要ですが、真剣に子ども達に向き合えばちゃんと応えてくれます。その手応えを感じた瞬間、この仕事をしていて本当に良かったと思います。子どもを相手にする仕事は大変ですがとてもやりがいがあります。だからそれを目指している皆さんの事を心から応援しています。

実習は“自己変革” 失敗を恐れず、積極的にチャレンジしてほしい

“お話を楽しもう”は、いよいよ実技が始まり、絵本に紙芝居に手遊びにと、皆さん熱心に取り組まれています。また、皆さんとても良いお話の聞き手です。楽しく、そして達成感を感じられる授業が、私の目標です。

さて、6月には長い実習が始まりますが、実習はある種の“自己変革”と言われます。これまで自身が学んだことを最大限に生かし、失敗を恐れず（先輩たちがちゃんとフォローしてくれますよ）、積極的にチャレンジしてほしいと思います。

例年、実習が終わった皆さんを見ると、凛々しく、何かが変わったような感じを受けます。6月30日、皆さんとお会いできることが、今からとても楽しみです。



山田 典子先生

お話を楽しもう



荒松 礼乃先生

つくって動いて感じてあそぶ

私のコースでは「手遊び」を入りに、主に体を使った活動の展開について考えています。今年は実習へ行くまでの10回の授業中、学生ができるだけ多く人前に出て一人で発表することに挑戦中。手遊びを披露したり、パクパク人形片手に即興でショートストーリーを話したり。学生は一人で一定時間を任される経験を経ると場馴れしてだけでなく曖昧な点や課題も明確になります。学生同士お互いのやり方を見て良い点に気づき学び合う時間も大切です。今年の履修者は特に素直で一生懸命頑張る学生が多い印象。手遊びから体遊びへ繋げて遊んだり、新聞紙を使ったお話遊びを考え発表したり、音や歌に合わせて行う体をほぐす遊びの応用を考えたりと、まずは活動を十分楽しみ、その後に指導案を書き、ねらいや展開、応用についてもまとめられるようにしていけたらと考えています。

子どもと楽しく遊ぶイメージを持つことが、指導案につながります

今年度もこの授業では、前半は音楽表現遊びを通して指導案作成及びグループ検討、後半は音楽劇の創作を扱っていきます。指導案作成が大の苦手である学生諸君にとってはできれば選択したくない授業ですが、「苦手な指導案を克服したい」「やらなければいけないことだから」と目標を明確にし、選択をしたことに期待をしています。

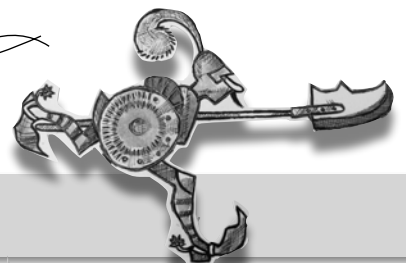
皆さんは指導案を書く際に、活動の始めから順番に書こうとしていませんか。そのような手順で書こうとすると主活動の配慮点を書く前に根を上げてしまいます。自分が子ども達と楽しく遊んでいる姿をイメージし、一番盛り上がるところから書き出し、イメージできないところは後回しにしていく書き方をお勧めします。楽しいイメージができるほど、具体的な指導案を書くことができるでしょう。



阿部 友理先生

音楽表現あそびの援助のあり方（実習指導案）

実りある3週間に向かって
つきすすもう！



1年生の保育体験

さっそく幼稚園・保育園へ行きました！

由田 新

「体験から学ぶ」—これは、明德の学びで大切にしていることからです。4月の早い時期から保育の現場へ出るということは、まさにこの実践です。さっそく、今年度も入学まもない1年生が様々な保育の場へと体験に赴きました。今回は「実習」という形ではなく、まずは保育の場を「体験」をしてみようということで、子どもや保育者と出会ってみる、そして、そこでの出来事を語り合ってみるということに主眼をおきました。

今年度は、幼稚園だけではなく、保育園、こども園まで含めて、11カ所の子どもの施設にご協力いただきました。学生たちの記録から、はじめての体験の率直な感想をあげてみたいと思います。

私は保育体験に行くのがずっと楽しみでした。けれども園の先生から実際に話を聞いて、なんか怖いな、子どもが好きだから行きたいけど、実際行って大丈夫なんだろうかという不安が生まれてしまいました。前日までずっと不安でいっぱいでした。しかし、当日、園に行行って登園してきた子ども達の顔を見るとそんな不安もなくなってしまいました。もちろん、初めてで終始緊張はしていたのですが、初めて会う私の顔を見て、嬉しそうに挨拶してくれる子どもたちの姿があり、早くいっぱい遊びたいなと素直に思いました。最後の話の時に、副園長先生は、今回はまず子どもと触れ合うのが楽しいと思えることが目的とおっしゃっていました。その目的通り緊張や不安を乗り越えて子どもと触れ合うことが楽しいと純粋に思うことができました。

(佐久間美穂さん)



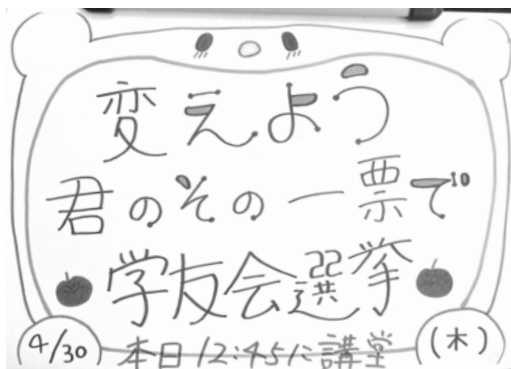


今日、半日、幼稚園に行ってみて、子どもは思った以上に自分でいろいろなことができたり、わかっていたりして、子どもに対して抱いていたイメージががらりと変わりました。戸惑ったことや困ったこともありましたが、やはり最後は楽しかったと思います。子どもたちの成長の過程をそばで見られる喜びもすごく大きいなと思いました。次の保育体験では、もっといろいろな角度から子どもの姿を見て、もっとたくさんのことを発見していけたらいいなと思います。（伊藤悠さん）

（2人の子どもが私に優しくしてくれたので、）「2人とも優しいね。ありがとう」と伝えました。すると2人からは驚きの返事が帰ってきました。「今優しくしたら大人になった時、もっと優しくなるんだよ。」とても5歳の子がいうことには思えなくて、しばらく衝撃を受けていました。保育体験前の副園長先生の言葉を思い出しました。「子どもではなく、一人の人間として園児をみて。」その通りだと思いました。たしかに身体は小さい子どもだけど、すでに大人になる準備を始めている立派な人間なのだと思います。（高橋栞さん）

保育者への入口として、いい体験ができたのではないかと思います。この体験は5月にも行い、少し間をあけて7月からは「実習」としての幼稚園での学びに繋がっていきます。

このような早い時期にも関わらず、学生の参加をお許しいただいた各園の皆様には改めてお礼申し上げます。



4月30日には、学友会選挙が行われました。学友会は、学生皆さん全員が学友会の会員であり、学友会役員は、より楽しく充実した学校生活を送れるような学校生活を考える学生組織です。さて、今年度の学友会選挙管理委員長と、学友会役員に、今の抱負を聞きました。

会長 豊田 真央さん (2年)



昨年度は副会長として学友会に参加していましたが、今年度は会長として立候補しました。私は、高校の先生がとても応援して下さいたことで明德に入ることができました。だから、せっかく入った明德で自分なりにがんばりたいと思い、学友会に立候補しました。先輩たちから昨年学んだことや自分の経験を活かし、改善する所は改善し、どの行事にも全力で挑戦していきたいと思っています。

学生みんなが豊かで楽しい学校生活を送れるように、学友会全員で学校生活をつくることを目標に努力します。保育を学ぶ私たちだから、明德だから、できることをしたいです。そして、みんなが、明德に入ってよかったと思えるような学友会でありたいです。どうぞよろしくお願いします。

副会長 尾田 友紀穂さん (2年)



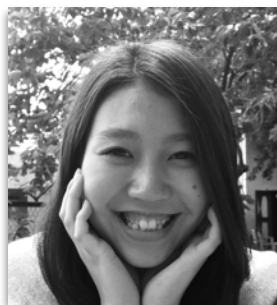
昨年は書記を務めさせていただきましたが、1年間活動してみて、とてもたくさんの反省点・改善点が見つかりました。学生生活最後の1年でもあるので昨年の反省点をいかし学生みんなが楽しい学校生活を送れるようサポートできたらなと思っています！1年間よろしくお願いします。

副会長 坂井 透さん (2年)



昨年の先輩たちが楽しそうに行事を行っている姿を見たこと、1年生と2年生が交流できる機会を増やしたいという気持ちから、副会長に立候補しました。これから、学園祭や色々な行事が出来たらいいなと思っています。影ながら会長を支援していきたいと思っています。これから、よろしくお願いします。

会計 滝口 友貴さん (2年)



昨年度も学友会を努めさせていただき、たくさん学べたことや反省があります。今年は昨年度の経験を生かし、この9人で悔いのないよう全力でより良い学校生活にしたいと思います。学生全員が楽しめる行事を数多く作っていききたいと思いますので、意見や要望があれば何でも、いつでも伝えてください！ よろしくお願いします。

会計 鈴木 友斗さん (1年)



学友会では会計として、皆さんの金銭管理はもちろん、1年は私1人しか会計がないので、早く会計としての仕事を覚えて、皆さんの力になれるように取り組みたいと思います！そして、全学生の皆さんが良い思い出を残せるような学校行事を作り上げるよう頑張りますので、よろしくお願いします！

学友会選挙を経験して

妹尾明希さん（2年）

👉 今回私は、選挙管理委員長を務めさせていただきました。時間のない中でしたが、選挙管理委員のみんなの協力のおかげで、無事に選挙を行うことができました。

そして、1年生、2年生から、新しく加わった学友会メンバーを見て、頼もしいなと期待するとともに、これから創られていく学生生活が楽しみになりました。

明徳の主体は学生です。学生が主体となって、学校生活を創っていきます。その学生の中心となる、学友会メンバーを決める選挙なので、学生全員に興味を持ってもらえるような選挙にしたいと思いました。しかし、何のために選挙をするのかという理由や、選挙の日にななどを、学生の皆さんに伝えるのはとても難しいことでした。どうしたら学生の皆さんが興味を示してくれるのか考え、実行できなかったことが反省点です。



今回の選挙をきっかけに、明徳の学校生活は自分たちで創っていくのだと、興味をもってくれたら嬉しいです。夏には学園祭があります。学園祭も学生が主体となって創ります。幼稚園や保育園、施設に就職した時、行事は保育者が主体となって創ります。それを学生のうちに実

践できるのが、明徳の学びの良いところだと思います。

学友会メンバーを中心に、学生みんなで協力して、思い出をたくさん創っていければと思います。

書記 宮本 花梨さん（2年）



去年から引き続き、学友会の書記を務めさせて頂くことになりました。去年は行事を学生の皆さんに伝えることができずにいたので、今年は積極的に行事を学生の皆さんにわかりやすくお伝えできればと思っています。よろしくお願いします。

書記 染谷 祐奈さん（1年）



学友会の書記としてみんなの力になれるよう頑張っていきたいと思います。行事などの際はみんなが楽しめるように学生の声を聞いて取り入れ、学校全体で行事を作り上げられるようにしたいです。これから1年間よろしくお願いします。

書記 江波戸 菜々さん（1年）



私は、学友会に入り色々な事を学んでいき、学んだことを生かし、皆さんと楽しく笑顔で生活していけるよう頑張りたいです。また、活動の幅を広げ沢山の行事を考え、地域の方々とも、より広く関わっていききたいと思います。

監査 伊藤 克臣 さん（1年）



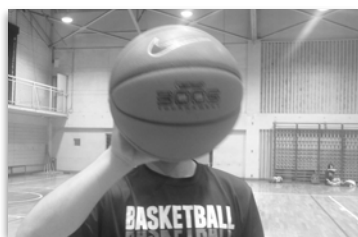
これから充実した学校生活を送れるように頑張りたいと思います。そして学友会のメンバーとしていろいろな行事を楽しめるように盛り上げていきたいです。1年間よろしくお願いします。

サークル紹介



明德にはさまざまなサークルがあります。サークルは、皆さん一人ひとりが、自分の好きなことを思う存分行える場であり、サークルを通して学年を越えて人と関わったり、挑戦したりできる場です。学校生活をより楽しむために、参加してみてはいかが？ 何より、自分の好きなことに仲間と一緒に取り組めるって、楽しい！

サークル名	サークル長	顧問	活動日時	活動場所
バスケットボール	大宮優一	田中	月・水：19:00～21:00	高校体育館
バレーボール	津川美月	鶴田	月・水：19:00～21:00	高校体育館
バドミントン	江口愛花	伊藤	火～金：授業後—施設まで	高校体育館
〇〇（まるまる/スポーツ）	河原みのり	金	火：19:00～21:00	高校体育館
テニス	吉野聖華	由田	水：12:00～20:00	有吉公園
軽音	松本みなみ	小久保	月・火：18:20～20:00	音楽室
吹奏楽	牧口みなみ	明石	金：15:00～18:00	音楽室、232教室
Meitoku Dance Creation	鎌形なつみ	田中	火：18:30～20:00	リズム室
Street Dance & Fitness	橋本淳	田中	月：19:00～21:00 不定期（火～金 授業終了後）	リズム室
冒険パーク	宮本花梨	石井	第4土曜	おゆみ野市内
チャリサー	及川竜馬	鶴田	不定期	学外（県内全て）
園芸	妹尾明希	伊藤 鶴田	不定期	花壇
大工	光山美里	得重	不定期	学食前広場
家庭科	平田夏望	片川	木：18:00～20:00	サロン・22B教室



バスケットボールサークル

バスケットボールサークルは月・水曜日の週2回活動しています。集合場所は18:30に食堂です。活動時間帯は19:00～21:00、主な活動はバスケットボールですが、バレーボール、バドミントンの2つのサークルへの参加も可能です。

たまに来てくださるOG.OBの先輩方もすごく面白いです。ぜひ初めての方でも遊びに来てください。

私たちバレーボール

サークルは、みんなで仲良く楽しく活動しています。主に活動中はゲームが多く、経験者・未経験者もみんなでつなげるバレーをするように、いつも心がけています。また、卒業生の先輩方も遊びに来てくださいます。個性豊かなメンバーですが、これからも明るく元気に活動していきます！



バドミントンサークル

バドミントンサークルは2年生6人で楽しく活動しています！

活動日は月・水曜日の19～20時で、18:30に食堂に集合し、その後みんなで高校の体育館に移動します。

ぜひ遊びに来てください！





私たちは〇〇（まるまる）サークル（スポーツ）です。〇〇サークルとは、その日に行う運動を自分たちで考えて、主にバスケットボールやバドミントンをして活動しています。毎週火曜日の19時から高校の体育館で行います。2年生12名で、毎回楽しく激しく盛り上がっています。皆さんも私たちと運動して良い汗かきませんか？

テニスサークルは今年になって新たにできたサークルです。現在は硬式・軟式問わずに有吉公園のテニスコートで活動しています。経験者2名、未経験者2名の4人で活動しており現在のメンバーは2年生のみです。活動は基本隔週で行っているので興味がある方は掲示板をみて是非参加してください。



軽音サークルは毎週月曜18時20分と火曜15時に2号館の音楽室で活動しています。主にボーカル、ギター、ベース、ドラム、またキーボードを使ってやっています。現在、1年11人、2年7人という人数で学園祭に向けて練習しています。18人の中で今まで楽器に触れたことがない人がほとんどです。最初はたくさん苦戦していましたが、今では夢中になって楽しく演奏をしています。初心者でも全然大歓迎なので、ぜひ軽音サークルに遊びに来てください。また学園祭でも私たちが演奏をするので良かったら聞きに来てください。



吹奏楽サークルは2年生しかおらず、6月に3週間実習があるため、活動していません。今年の学園祭は2年生にとって最後ですが、実習終了後の1ヶ月で曲をしあげるのは難しいため、学内のエントランスで演奏することが目標です。それに向けて7月から練習します。楽器経験者の方、初心者の方、大歓迎です。7月から毎週水曜授業終了後、音楽室で活動します。よかったら見学に来てください。

MDC (Meitoku Dance Creation) サークルです。1年生3人、2年生5人で活動しています。毎週木曜にリズム室で練習しています！創作ダンスを主にしており、基礎練習でバレエやターンの練習をしたりもしています。学園祭でも楽しく踊ろうと思っています！みんなで楽しく活動しています。



Street Dance & Fitnessサークルは、超初心者～大歓迎！！メンバー募集！！フィットネスマシンを使って子どもと遊ぶ体力作りをしたり、ヒップホップダンスで楽しく踊って豊かな表現力を高めましょう！どちらかでも興味ありましたら見学に来てください！よろしくお願いします。

冒険パークサークルでは、「おゆみ野Cafe」という団体で、毎月第4土曜日に有吉公園にて地元の赤ちゃんから小学生までの子どもたちと遊ぶ活動をしています。7月には水遊びをするなど、その時期に合わせたイベントもしています。



大工サークルは、園芸サークルと連動して、校内の豊かな自然を満喫しながら、のんびりと自由に過ごせる場所を整備することを活動内容としています。具体的には、花壇横に可動式のウッドデッキを作る予定です。



チャリサーは【自転車に乗り、目的地を目指す】ということが主な活動です。不定期活動が多いです。活動時間はその日1日中（場所によっては0時を回ることも）です。季節毎の風景だったり、気候を楽しむことができます。自転車の貸出もしているので、持っていなくても参加出来ます。初心者ばかりなので、気軽にご参加ください。



私たち園芸サークルは今、正門横の庭の整備をメインに活動しています。オーガニックコットンの栽培に挑戦していて、収穫後はオーガニックコットンでぬいぐるみなど、子どもの玩具を作ることを目指しています。

また、大工サークルと協力し、庭にウッドデッキを作る計画を立てています。四季折々の自然を感じられる、憩いの場を作って行きたいです。

どれに参加する？



PROFILE



教員名

いけたに じゅんこ

池谷 潤子

担当科目

あそび基礎演習、教育実習Ⅱ

メッセージ

6月から産休に入るため、今年度は1年生のあそび基礎演習（音楽）を2か月間だけ担当させて頂きました。新入生のみなさんとの授業では、フォークダンス、わらべうた、素材（竹）を使った音楽づくり、木琴でのアンサンブルと即興演奏など、毎回の授業を楽しみつつ、一つひとつの課題に真摯に取り組んでいる姿に触れることができました。みなさんにとって充実した2年間になりますように！

教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

第2回目は、6月から産休に入られた池谷先生から、皆さんの人生を応援するおすすめを発信です。

二十歳（はたち）のころⅠ・Ⅱ

立花 隆＋東京大学教学部 立花隆ゼミ ランダムハウス講談社（2008）

私のおすすめは、ジャーナリスト・評論家である立花隆氏が、東京大学のゼミ『調べて書く』の課題として、いろんな人にその人の二十歳のころを聞き、人生における「二十歳のころ」が持つ意味について探ってみようという企画で、学生たちが行ったインタビューをまとめた、学生との共同作品です。

この本をきっかけとして、6年前のめいとく祭り（学園祭）の教員企画として、加藤次郎先生の提案で石井章仁先生が企画運営をし、教員が自分の「二十歳のころ」を語るという小さなシンポジウムが行われました。当日は、副島先生「児童養護施設出身の遠藤選手（オリンピック・体操）との出会い」、深谷先生「国外旅行による異文化体験と予期せぬ再会」、由田先生「セブンブリッジ漬けの強化合宿」、石井先生の「お寺に出生した重さ」、田中先生「イギリス留学」というテーマでの登壇し、そこで語られた内容がとても興味深かったことから、翌月から月歩学歩に全教員の「二十歳のころ」が1年間かけて連載されました。

私にとってこの本は、二十歳のころに出会いたかった本です。すでに2度目の成人式を迎える歳になりましたが、そんな私も時々読み返すたびに人々の生き様に触れ、世界の広がりと人間の多様性について改めて感じる機会を持つことができます。そしてどのような人も、表面的に見えている姿だけでなく、今まで生きてきた数十年という歳月があるからこそ、いま「その人」がいるという「他者」の人生に触れることの重要性に気づかせてくれる本です。

この本に出会ってからゼミ（2年生の授業「保育方法演習」）で卒業レポートを書く際に、学生が自分の二十年間の人生を振り返り、自分の周りの人たち（両親、親戚、バイト先の店長など）に二十歳のころどのようなことを考え、悩み、職に就こうとしていたのかインタビューをする際の参考文献として学生に薦めています。図書館にありますので、興味のある方はぜひ手に取ってみてください。

金子重紀先生

Profile

1984年東京大学経済学部卒業、1996年弁護士登録。以来19年間弁護士として刑事事件・少年事件を多く手掛ける。千葉明德短期大学創造学科非常勤講師を経て2015年4月学長就任。

主な活動

2004年6月～2014年5月

千葉県弁護士会子どもの権利委員会委員長

2006年4月～現在

千葉県児童虐待対応法律アドバイザー

2003年4月～現在

千葉県児童福祉施設協議会施設生活等評価委員

2008年10月～現在

NPO法人虐待から子どもを守るネットワークちば
理事

2012年4月～現在

協同組合 千葉県若人自立支援機構 理事

2014年1月～現在

NPO法人子どもセンター帆希理事長

これまで非常勤として明德に勤めていた金子先生が学長になって2ヶ月が経ちました。学長になって今の思い、学生との授業での関わりを通して感じることを語っていただきました。話は先生の人生にまで及び、尽きることがありませんでした。

学長になって2ヶ月 — 明德の魅力

今までは弁護士として多くの少年事件に携わってきたけれど、明德の学長としての仕事は新しい世界で面白いですね。

弁護士として、少年事件を起こした少年たちと話す経験から、かっこよくいうと、人の人生に興味を持つようになった。弁護士としての仕事の一番面白いところは、どんなつっぱった人でも、時間をかけて「どうしてですか」「何に悩んでいるのか」と一つの空間で話すと、多くの人は素直に話してくるれるところ。そういう空間だと、人ってやっぱり立ち止まるし、ふりかえるし、分かって欲しいと向こうが思うと語ってくれる。その経験が弁護士はできる。色々な人の人生に関われたことが、弁護士をしていてよかったことだと思っています。

ここは、明德の学生たちが素直だしで、さらに、互いに育ちあうという意味で、弁護士をしていた時のこととすごく共通性がある。接見室とは違うけど、1つの教室という場があって、共通目的があって、共通話題を提供できて。それに、学生とやりとりをすることで、学生が主体的になれる、民主的な社会をつくるというイメージを持って取り組める。それが明德の面白さでもあります。

これまで他の大学でも自分の専門分野の授業をしてきたけれど、1コマの大教室での講義ばかり。学生は授業中、静かだけれど、講義を聞かなければいけないという前提があって、授業をしていてもどこか一方通行な感じがしていて。授業後の感想で学生の反応は分かるけれど、学生と一緒に授業をつくっていくことが難しい。

ここはそういう前提ではない。明德は教員と学生の距離が近く、単に講義をするだけではなく、学生と一緒に授業をつくっていかうという意識が強い。そういう前提だと、学生と関わらないと学生は育たない。そこはそのことが、大変だけれど面白い。

学生に伝えたいこと — 18、19、20歳の頃を思い出して

それが難しい。結構考えるんですけど。何言ったらいいんだろうね。

私自身は、中学1年の時はその生徒の多くが目指すU高校に入らなかったら周りからどんな目で見られるかというプレッシャーを感じながら、一生懸命、学校と家の往復で勉強して、部活にも入りそびれていました。それが2年の時に爆発して、不良にはなれなかったけど、道草くって帰ったり。でも、中学3年でまた周りのプレッシャーに負けて、成績は良かったからU高校に入った。高校に入ったらようやく自由になれると思っていた。合格祝いにフォークギターを買ってもらって、深夜放送とか聞いている感じで、だからといって、そういう生活に慣れていないし、地学部に入って気象をして、将来は気象庁に入ろうかとも思っていた。高3の時に、三者面談で先生が「彼はとってもいい青年ですね」って言っていて、腹が立った。「何見てんだ」とも思ったけれど、自分はそういうふうに、外面はよくて、でも内面はもんもんとしていて、表と裏みたいなのがある自分にも腹が立っていた。

大学は、そういう反発から人間社会が嫌だ、文化人類学をやろうと思った。人間の原点とはなんぞや、とか考えようと思い始めた。一番行きたかったのはK大学。でも、家から出さないと親に負けて、ともかく、じゃあ東京大学しか受けないとつばって。

結局、東京大学に入って、今度こそ自由だと思って、色々なサークルに入った。でもその生活に1年で疲れて。難しいよね、自由って。解放されることが自由じゃないもんね。それで、何やってんだと思っている時に、生活保護を受けながら生活している高齢者とか母子家庭の家を回ることを始めて。そこから授業に出なくなって、大学には6年いました。だから18、19の頃は、自由になったと思いながら、解放されたっばいだけで、何が自由かもわからないで、うろうろしてました、としか言えない。

だから私が「学びの創造プラン25」に共感するのは、ここを出て完成じゃないよ、一人前じゃないよ、卒業後も考えていけるようにしようね、ということ。消極的なメッセージな気がするけど。私が学生に伝えたいことは、まだ不完全でいいんだってことと、卒業しても一緒に成長しようね、私たちはそれを支えるよってことだと思う。

今後のこと

明德にはすごく素直な学生と、素直さを秘めながら、表面で教員と学校とに距離感を持っている学生がいると感じている。自分たちの世界を作ろうとバリアを張っている。私語はその一つだと思う。それをどうくずし、まきこむもうか、と思っている。この間も、日本国憲法の第1回目で私語の話をした。人に迷惑をかけないという前提だけれど、私語も表現の自由だよね、でもそれと聞く権利とのバランスだと。それをどう調整するかが憲法なんだと。

一般的には、聞く権利が大事だから、私語は禁止となる。でも授業の感想を見ると、例えば、「大学の管理の問題だ」とか、「じゃあ私語をやめたい」という素直な感想もあったりする。そういうごちゃごちゃしたところをまとめて、じゃあ自分たちでルールを作ったらいいと提案したい。そういう刺激を与え続けていきたい。学生を見ていると、生活がなかなか大変で余裕がないということはよくわかっているんだけど、自分で主体的に社会と関係を持つことや、自分たちのことを自分たちで決めていくという訓練があまりにも少ない。それをすることが、自分で考えることや、社会の中での自分の立ち位置につながるのではないかと考えています。



! hot news !

new movements of this month in meitoku

! 今月の明德速報 !

学友会主催「たこやきパーティー」

私たち学友会は、1・2年の交流を図り親睦を深めるため、5月16日にスポーツ大会を企画しました。しかし、企画を皆さんにしっかりと伝えられなかったこともあり、事前のアンケートで参加人数がとても少ないことがわかりました。そこで、スポーツ大会を延期しようとの意見も出ましたが、それではせっかく来ようとした人の気持ちはどうなるのかという意見も出ました。そこで話しあった結果、スポーツ大会の代わりに「たこやきパーティー」を開きました。当日は、20人弱の1・2年生が集まるにぎやかな会になりました。

私は、去年の5月に行われたスポーツ大会で、今まで話したこともなかった先輩と関わり仲良くなることができました。だから、今度は、多くの人に参加できるようなスポーツ大会を、また企画したいと思っています。（2年：豊田真央）



「あそび基礎演習」

菅谷君夫先生を迎えた合唱の授業



5月の授業「あそび基礎演習」では、本学で非常勤講師を務める菅谷君夫先生をお迎えして、合唱を行いました。明徳の校歌に加え、「この星に生まれて」、「Together」を、ソプラノとアルトに分かれて歌いました。古山先生がおっしゃっていましたね。「保育者にとって、声はとても重要」。歌うことを通して、声を出す楽しさや、人と調和する（ハーモニー）楽しさを味わいましょう。

教員たち、「日本保育学会第68回大会」へ参加・発表



明徳の専任教員9名が、5月9・10日に行われた「日本保育学会第68回大会」に参加し、そのうち7名が発表しました。また、本学の小久保先生は、現在明徳土気保育園で働きながら東京家政大学で大学院生として学ぶ花井先生と共同発表しました。学会で教員が得たものは、必ず皆さんに還元されるでしょう。

口頭	「自分たちで生活を創る」場面から「生きる力」を問い直す(1)(2)	小久保 圭一郎・花井 洋平
口頭	保育における「主体性」という言葉についての一考察	片川 智子
口頭	保育者養成校から現場支援の可能性を探る:明徳遊ぼうカーの挑戦	深谷 ベルタ
ポスター	昔話を保育の現場へ「伝承の場」としての可能性を考える	高森 智子
ポスター	短大における保育者養成システムの新たな可能性～高度化への試み	金 瑛珠・由田 新・片川 智子
ポスター	実習間の繋がりを意識した指導とその効果に関する一考察	石井 章仁・小久保 圭一郎
シンポ	園舎の音環境を考える～子どもや保育者にとってよりよいあり方を探る	由田 新他
シンポ	保育現場との協働を可能にする巡回保育相談の現状と課題(3)	金 瑛珠他
口頭	保育現場と養成校との協働による保育所実習のあり方Ⅷ	石井 章仁他
ポスター	放課後児童クラブにおける災害対策に関する研究2	石井 章仁他

「平成27年度体力・運動能力調査」実施！

今年度、明徳は、文部科学省による「平成27年度体力・運動能力調査」の短期大学対象に選ばれました。この調査は子どもから高齢者まで幅広く実施され、その結果は今後の体育・スポーツ活動方針の基礎資料となります。そのため、1年生は体育の授業で、2年生は授業の合間に調査を行いました。何度も伝えたことは、これは調査であり、皆さんを評価するものではないということ、でも、自分のベストは尽くすこと、そして保育者になった際には測定する側になるということを意識して取り組むことです。





種目は8つ；50m走、反復横とび、上体起こし、長座体前屈、立ち幅跳び、握力、シャトルラン、ハンドボール投げです。幼児の場合は、25m走、立ち幅跳び、体支持持続時間、両足連続跳び越し、補球、往復走の6種目により調査します（「MKS幼児運動能力調査」<http://youji-undou.nifs-k.ac.jp>）。

ちなみに、皆さんの記録結果は、全国平均を上回る結果となりました。特に男性は、全国平均を大きく上回りました（すごい！）。そのような皆さんが持っている、俊敏性、瞬発力や持久力などを総動員させ、しなやかで鋭敏な体を、子どもといる時に活かしてほしいと思っています。

2年生の中島 啓さんが5/24船橋市民文化ホールにて 「船橋市交響吹奏楽団 第46回定期演奏会」に出演しました！

私は今現在、学業と並行して音楽活動をしています。「船橋市交響吹奏楽団」という、主に船橋を中心として活動している一般バンドに所属しており、日々練習に励んでおります。具体的な内容としては、毎年開催される吹奏楽コンクールに出場したり、地域のイベントに参加したり、小・中学校の吹奏楽との交流を深めるため指導しにいたり、楽団としての演奏会を開かせていただいたり、さまざまな活動を積極的に行っています。演奏会では、被災地のための募金活動をしたりと、チャリティコンサートにも力を入れています。音楽を人のためにと、一般バンドではありますが、プロ意識を持って音楽を届けさせていたいただいています。

私がこの楽団に入るきっかけとなったのは、高校時代の恩師の紹介でした。中学校の頃から吹奏楽部に入り、高校も同じように部活動に励み、高校を卒業してまだ音楽を続けたいと考えていた時に声がかかり、楽団に入ることを決めました。

何か自分の好きなことに一生懸命うちこんでいくと、それが心のよりどころとなり、自分を支えてくれるため、様々なことにチャレンジしていけます。だから私は、これからは、学内でも積極的に演奏活動に取り組み、ボランティアなどにも参加し、少しでも音楽を人のためになるように、自分を磨き、活動の幅を広げていきたいと思っています。（2年：中島啓）



「学生月歩学歩委員」ご紹介！

前回の「次号予告」でお伝えした学生の月歩学歩委員が集まりました！ 学生委員による取り組みは今年初めてで、学生委員と一緒に本誌をつくれることにわくわくしています。今回は、意欲あふれる期待の委員3名のご紹介です！



私は、高校生の時に見た、学生生活を楽しそうに話す笑顔で明るい先輩方がとても魅力的だったので、この短大に来ました。今、明德に来てまだ2ヶ月ですが、サークルに入ったりして、あの素敵な先輩方のように毎日楽しく過ごしています。

これからは、月歩学歩委員の私たちと、明德短大のみんながいる場所を、読者の方へ伝えていきたいと思っています。



岩井 凜さん（1年）



栗山 恵里奈さん（1年）

今年「月歩学歩」の編集のお手伝いをさせて頂くことになりました。好きなことは、アクセサリやお菓子を手作りすることです。記事は、楽しいことを書いて、なるべく多くの人に読んでもらうことが目標です。学生の皆さん、身の周りに、がんばっている人、紹介したいことなどありませんか？ そんな時こそ、こちらにご連絡ください。待っています！

私は人のいいところを見つけることが得意だと思っています。また、まだ何もサークルにも入っていません。だから、せっかくの機会なのでこの委員に入ることにしました。まだ何もわかりませんが、力を出せるように頑張りたいです。



鋤田 春華さん（1年）

MEITOKU SNAP



5月28日の「あそび基礎演習」は2回目の合同授業、オリジナルパネルシアターを作って演じて遊びました。全22グループが創意工夫を凝らし、驚きと笑いの溢れる時間を過ごしました。また、産休前最後の授業の池谷先生からも、1年生皆さんへのエール溢れるお言葉をいただきました。

編集後記

第2号となる本誌は、学生皆さんに向けたメッセージの多い号となりました。新年度が始まって2ヶ月経ち、学生の皆さんも、学生ではない読者の方々も、それぞれの立場や状況で、さまざまなことがあり、いろいろな思いを抱えていると思います。焦ったり、不安になったりすることもあるかもしれません。でも、どんな時も、今、自分ができることを考え、こつこつと積み重ねていくことは、未来につながります。

1年生は、授業の空き時間に附属幼稚園でボランティアやバイトをして、現場に身を置く姿が見られます。2年生は、授業の合間や放課後に、ピアノを練習したり、指導案を書いたり、あるいは自分がすべきことを見据えたりと、奮闘する姿が見られました。「今、できること」に取り組んでいる皆さんの今が、輝く未来につながりますように。(田中)

明德の6月

5日(金)～26日(金)

▶ 教育実習Ⅱ(2年生)

15日(月)

▶ 教育実習指導日(2年生)

▶ 保育体験Day

27日(土)

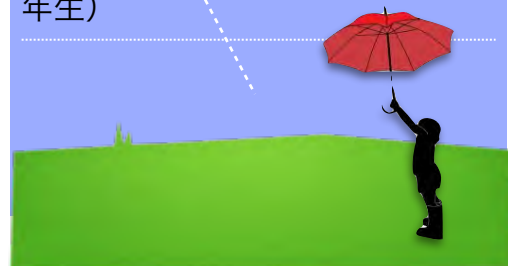
▶ めいトーク保育講座

28日(日)

▶ オープンキャンパス

30日(火)

▶ 第51回スタバお話ライブ(2年生)



★INFORMATION★

明德HPの「めいたんブログ」でも、明德の「今」を日々発信しています。ぜひご覧ください。

<http://chibameitoku.blog53.fc2.com>

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:<http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html>

編集

田中 葵

鶴田 真二



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せください。